

第1回ふくいの農業を考える会 委員意見概要

《日時》	平成20年2月8日(金) 13:30~16:20
《会場》	国際交流会館第2会議室
《出席者》	安実 正嗣 農業者 伊藤 浩一 農業者 上野 香代子 農業者 香川 哲夫 福井県経済農業協同組合連合会 理事参事 白崎 誠 農事組合法人 越前国中 代表理事組合長 祖田 修 福井県立大学 学長 中田 典子 小浜市食のまちづくり課 政策専門員(食育) 山本 清隆 JAテラル越前 指導販売部 営農特産課長 吉村 文雄 株式会社 吉村甘露堂 代表取締役
《欠席者》	なし

《概要》

- 1 本県農業をとりまく状況等について
- 2 農政の推進に係る問題点等
- 3 意見交換

(委員からの主な意見)

- ・消費者には農産物の産地や原料が大きな関心事であり、そのアピールが重要。
- ・地産地消をすすめる為に、地元のもが身近に手に入るシステム作りに併せて、地域で取れたものを食し、心を育む、その尊さを教えていくことが非常に重要である。
- ・10年先を見た場合に、輸入農産物の価格上昇等が考えられ、日本農業が良くなるかもしれないと考えている。
- ・国では農地集積で大規模農業を展開するとしているが、田んぼを出す側からすると、農業への関与まで手放したいわけではない。人情味あふれる政策、残された地域の人々まで考える政策が必要である。
- ・中国は非常に大きな市場であり、安全性の高い日本の農産物を逆に輸出することも可能である。他方、米粉の利用として、米パンだけでなくパスタ等も視野に入れて、日本最先端の学校給食を目指したらどうか。
- ・福井のコシヒカリの再出発をするため、生産・販売等様々な工夫が必要である。
- ・中山間地域においても、規模拡大を図り経営的に成り立つようにしたいが、近隣集落でも集落営農の立ち上げが続いており、規模拡大が思うように進まない状況である。
- ・本県の園芸振興については、総花的な振興ではだめ。地域を絞った、地域の特色を生かした振興策が必要である。
- ・PRは非常に重要であり、テレビ等で取り扱われると注文が殺到する。PRのやり方をしっかり検討する必要がある。